

明智光秀が築いた福知山を未来につなぐ

～治水対策を活かしたまちづくり～

1. はじめに

福知山市は京都府の北西部に位置し、京阪神から70km前後の距離にあり、昭和12年に京都府で2番目の市として誕生しました。市内を1級河川の由良川が流れ、国道9号等の国道や舞鶴若狭自動車道、JR山陰本線・福知山線および京都丹後鉄道などが通る北近畿の交通の結節点となっており、交通の要衝として発展してきました。また、国内有数の内陸工業団地「長田野工業団地」等を有する産業拠点となっています。

都市基盤整備としては、昭和29年から土地区画整理事業に着手し、その後、街路事業なども行って街づくりを進めてきました。近年では福知山駅付近連続立体交差事業と合わせた駅南・駅周辺土地区画整理事業などの完成により、駅周辺の南北市街地が一体化し、北近畿の玄関口として魅力ある市街地が形成され、現在、市域面積552.54km²、人口約7万8千人の都市として発展しております。



写真-1 福知山駅北広場

2. 水害との闘い

本市は城下町として栄えてきましたが、現在、NHKで放映されている大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公、明智光秀が安土桃山時代に福知山城を築城し、城下町の整備を行いました。市内を流れる由良川により、常に水害に見舞われていた城下を守るために堤を築き、治水対策を行ったとされ、

そのなごりは現在、「明智藪」と呼ばれております。まちづくりの礎を作った光秀は、福知山市では善政を行った良君として慕われ、市内の御霊神社に神として祀られています。



写真-2 由良川と明智藪

福知山市は、その光秀の時代から数多くの洪水被害を受け、その時々で対策がとられてきましたが、近年は国土交通省のご尽力により、由良川本川における築堤等の整備が進み、由良川外水による被害は大幅に軽減されてきました。

3. 由良川流域における総合的な治水対策

このような中、平成26年8月に市街地を中心に集中的な降雨があり、福知山観測所において観測以来最大の2日間で335mmの降雨を記録しました。この「平成26年8月豪雨」は、整備されていた排水ポンプ等の施設能力を大きく上回るものであり、床上浸水2,029戸、床下浸水2,471戸の被害が発生しました。この大規模な内水被害の対策を早急を実施していくために、平成26年8月29日に「由良川流域（福知山市域）における総合的な治水対策協議会」を立ち上げ対策をまとめました。

この対策は、国、京都府、福知山市の3者で役割分担を行い、連携しながら取り組んでいくもので、平成27年度から概ね5か年で「平成26年8月豪雨と同程度の降雨が発生した場合での床上浸水の概ね解消を目指す」というものです。

計画としては、総合治水対策に取り組む流域に



福知山市長 おお はし かず お
大橋 一夫

おいて福知山市が河川上流部に21万 m^3 の調整池等の整備、市街地では地下貯留施設の1万 m^3 の新設、ポンプ施設の1 m^3/s の増強、国が排水ポンプ施設27 m^3/s の増強、京都府が、弘法川、法川の改修及び効果量20万 m^3 の調節池及び排水機場11 m^3/s の新設を行うもので、現在、令和2年の出水期に事業効果が発現できるよう進めております。



写真-3 平成26年8月豪雨浸水状況写真

4. 内水対策のモデル事業

そのような取り組みを進める中、平成30年7月豪雨によって大きな被害が発生しました。この豪雨では、由良川の下流部にある本市の大江町においても、輪中堤工事中の平成25年、26年と、堤防完成後の平成29年、30年と大規模な床上浸水等の被害が発生したことから、地域住民の落胆も大きなものでした。

このような状況を受け、「由良川減災対策協議会」の中に平成30年9月に「由良川大規模内水対策部会」が設置され、その中で流域全体での内水対策の取り組みについて議論していきました。

本市は当該地域の中で、とりわけ内水被害の大きかった大江町河守・公庄地区を内水対策のモデル地区と位置づけ、早期効果発現を最優先に取り組むこととし、京都府管理2河川、福知山市管理3河川があることから、国・府・市の3者で役割分担を行う内容で計画をとりまとめました。

特に排水施設は早期効果発現を目指すために本市が事業主体となって施設整備を行うこととし、本市は①支川の準用河川公手川改修・護岸嵩上げ止水対策（陸閘等）②排水ポンプ施設約3 m^3/s ③調節池約5,000 m^3 を、また、国土交通省においては、財政的支援や由良川本川の河道掘削、樹木伐採を、京都府は支川の1級河川蓼原川護岸嵩上げと、市が整備する排水ポンプ施設の財政支援を行うこととし、その整備に取り組んでおります。

被災後1年足らずで事業に着手できたのも、総合治水対策の経験及び国、京都府との強力な連携体制によるものであり、国土交通省、京都府をはじめとする関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

今後は、少しでも早い事業効果の発現を目指して全力で取り組んでいきたいと考えています。

5. おわりに

本市は、北近畿地域における運輸・通信・産業経済の拠点都市として発展してきました。

このような中、大きな災害を受けて治水対策に取り組んできておりますが、これらが完成することで治水安全度が高まり、安全・安心な地域づくり、まちづくりが進むものと期待しているところです。ただ、一方でハード整備だけでは限界があることから、ソフト対策である情報発信や避難対策などを組み合わせて取り組んでいきたいと考え、本年度から改めて避難所の課題も含め、避難のあり方について検討会を設置し、検討を進めるとともに防災教育についての取り組みも行っているところです。

今後は、これらの治水施設も活かし、親水面も取り入れたまちづくりができればと考えており、ふるさと福知山を未来へつなげるよう、英知を集結して取り組んでいきたいと考えております。

本市の治水対策の先人である明智光秀が築いた城下町、福知山市に是非、お越しく下さい。